

令和7年度小松市立今江小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	たてわり活動や学級活動、児童会活動を通して、児童の主体性を伸ばす。（田守・東・山元）	肯定的評価：児童95% 教員100%	肯定的評価：児童94% 教員100%
	○児童が主体的に活動できる機会を計画的に設定する。 ・全校が一体となって取り組む縦割り活動、行事等における縦割り班の有効活用 ・高学年児童・児童会主催のよりよい学校づくり ・学級委員・実行委員による行事・学級会等の主体的運営 ・上記の活動を通じた教職員の意識・指導力向上 ・学級や学校のために主体的に行動している。【児童・教職員アンケート100%】	児童の肯定的回答率は去年と比べて変化はないが、A評価の割合が15%上昇しており、左記の取り組みが効果に実施されたことが推測できる。去年から始めた縦割り活動が軌道に乗り、特に6年生児童の成長が見受けられる。また、今年度から高学年でリーダーズタイムを導入しリーダーとしての意識づけを行ったり、春の遠足をたてわり遠足にしたりしたこともA評価の割合の伸びに繋がっていると考えられる。2学期以降も児童会活動とも関連させ、縦割り活動や縦割り班の更なる活用を模索していく。また、活動の主体を3、4年生まで段階的に下ろしていく、ネクストリーダーとしての意識を高めていく。	中間の結果と比べて、児童の肯定的回答率は大きく変化はないが、A評価の割合は12%減少する結果となった。行事やたてわり活動では、児童の様子や振り返り等の記述から高学年児童の成長が見受けられる。今後は、行事はもちろん日常的な取り組みを通して、よりよい学校づくりや学級づくりに参画できるように丁寧に検討・改善を図り、次年度に提案できるようにしていく。また、低学年児童や中学年児童がめざす姿を具体的に考え、伝えていきたい。取り組みを行う際は、必ず全職員で共通理解したうえで、共通実践を行いたい。
特別支援教育	児童理解を活かした個別支援の実施（田中・住田）	肯定的評価：教職員93%	肯定的評価：教職員100%
	○特別支援教育支援員、心の相談員、SCや専門相談員、教育センターなどの関係機関との連携を図り、支援が必要な児童の有効な支援のあり方を探る。また、特別支援学級での弾力的な運用を行い、きめ細かな支援に取り組む。 ・日常的な情報共有・実践、また関係機関と連携を図ることで、児童への支援が適切に行われている。【教職員アンケート100%】	気づき票をもとにして低中高ブロックで学年支援委員会をした。その後、要支援と考えられる児童について校内支援委員会を行い、情報共有し、対応について検討して弾力的運用の早期開始や就学相談の申し込み等につなげた。児童理解の会においても児童の状況や支援の進捗について情報共有を密に行っている。学級の状況や要支援の児童の状況によって2週間から1か月の間に頻繁に支援員等の配置を改訂して対応した。また、「通常の学級で使える支援のポイント資料集」を作成して、教職員に配布したり、臨時の支援会議を行ったりして、きめ細かく組織的な特別支援教育の運用を実施している。	計画的に学年支援委員会、校内支援委員会を実施した。話し合い後は速やかに、支援員の割振りの改定、保護者懇談、弾力的運用、就学相談の申し込みと対応、実行した。特性やケースに応じた対応例や支援の手立ての参考資料を教職員に配布し、学年支援委員会で具体的な支援の検討をするようにした。特別支援教育関係の多様な事例や支援の具体の理解を職員に深めるために、資料の閲覧や配布を行った。通常の学級における支援を要する児童の早期把握、早期支援について、支援員等の配置や弾力的運用、通級利用等の局所的な支援のみならず、日常の教職員の指導力、対応力のスキルアップを図っていきたい。
道徳教育	道徳的価値の高まりに気付く道徳教育（松本）	肯定的評価：児童96%	肯定的評価：児童93%
	○道徳の授業を授業参観で年に1回公開し、道徳で学んだこと（ふりかえり）を家庭で伝えることで、家庭と情報を共有する。 ○児童自身が振り返りノートなどを活用して、道徳的価値の高まりに気付く。 ・道徳の授業を通して新たな考えが加わったり、これからの自分の生活に生かす考えが見つけたりすることができた。【児童アンケート85%以上】	・道徳の授業を通して新たな考えが加わったり、これからの自分の生活に生かす考えが見つけたりすることができた。 ・2学期の授業参観の前と後に、道徳の授業を年に1回必ず公開するよう声掛けをする。 ・振り返りノートを年に1回お家の人に見せるように伝える。具体的な例を示し、先生方に伝える。 ・2・4・6年の先生に、夏休み中に挿絵を印刷しファイルに入れてもらう。	・2月の授業参観までに、全クラス道徳の授業を行うようにする。 ・授業後の振り返りノートを、3学期中にお家の人に見せる。具体的な例を先生方にお伝えできていなかったので、1月中に道徳通信で伝える。 ・夏休み中に全ての学年の挿絵を印刷しファイルに入れることができた。
読書教育	読書の質を高める読書活動の推進（坂本）	肯定的評価：児童89%	肯定的評価：児童93%
	○「本のとびら」の本を進んで読むように働きかける。 ・読書マイスターの表彰 ○様々な分類の本を手に取りるように働きかける。 ・司書の先生の推薦する図書のコーナーを各クラスに設置する。 ・読書マイスターに表彰された児童が以下の割合いる。【読書マイスター表彰 1学期末：3割、2学期末：6割、3学期末：8割】 ・「おすすめの本コーナー」の本を進んで読んでいる。【児童アンケート70%以上】	・「おすすめの本のコーナー」の本は、児童アンケートでは8割を超える児童が読んでいると答えている。今後定期的に入れ替えをし、様々な分類の本を児童が手に取れるよう環境を整えていく。 ・読書マイスター達成率は全校で4割を超え(44%)、進んで読書に取り組んでいる児童が多い。しかし、クラスや学年によるばらつきが見られるので、全校で取り組めるように進めていきたい。	・「おすすめの本のコーナー」の本は、9割を超える児童が読んでいると答えている。できるだけ入れ替えの機会を増やし、児童がいろいろなジャンルの本を手に取りやすいように環境を整えていきたい。 ・読書マイスター達成率は、2学期末で67%で目標をクリアしている。全員達成した学年もあり、3学期末には目標の8割を達成できていると思われる。各学級にシールをはる氏名表を掲示し、引き続き声掛けをしていきたい。
保健安全教育	健康な体づくりの推進（宮元・中野）	肯定的評価：94%（A：27%、B：67%）	肯定的評価88%（A：25%、B：63%）
	○規則正しい生活リズムが身につくように働きかける。 ・児童が睡眠時刻を意識できるように保健指導を実施する。【すいみんカード 睡眠時刻を守っている児童が増える】 ・早寝・早起き・朝ご飯・歯磨き等基本的な生活習慣が身につけている。【保護者アンケート85%以上】	1学期には、すいみんカード、歯と口の保健指導・歯みがきカレンダー、食育授業、児童保健委員会を活用した保健チェックなどを計画的に実施した。熱心で協力的な保護者ももともと多いことに加え、取り組みに応じて保護者も巻き込んで実施したことが肯定的評価が高くなった要因であると示唆される。2学期もすいみんカードや学校保健委員会など保健関係の取り組みを継続して計画的に実施していく。	2学期（11月）は学校保健委員会後に、2回目のすいみんカードを実施した。目標の時刻までに寝ることができた日数が1学期より2学期のほうが多かった児童の割合は、64%であった。学校保健委員会で講師の先生による講話を聞き、児童はそれぞれにぐっすり眠るためのめあてをたて、すいみんカードに取り組むことができたことや継続したすいみんカードや保健指導の実施が睡眠時刻を守れる児童の増加につながったと示唆される。
体力向上	体育的行事等を通して、体力、運動能力の向上に向けて粘り強くチャレンジする児童を育成する。（坂野）	肯定的評価：児童94%	肯定的評価：児童94%
	○充実した体育的活動に、全校で取り組む。 ・様々な運動に親しみ、最後まで諦めずにチャレンジすることができた。【児童アンケート100%】	・運動会や体育の授業等で運動に親しみ、諦めずに取り組む姿勢が見られた。 ・体育委員の創造的活動で「反復横跳び」のイベントを行い、体力テストへの興味関心をもつことができた。 ・鉄棒の技が達成した児童がホワイトボードにネームを貼っていくことで可視化できて、意欲向上につながった。 ・2学期の水泳学習、持久走の取り組みなどもカードやワークシートを活用することを検討したい。	・A評価の児童が12%上昇した。たてわりリレーマラソンを実施したことで、仲間と協力しながら、最後まで諦めずにチャレンジする心を養うことができたと考えられる。来年度も児童の体力向上、チャレンジする楽しさを味わわせる方策を持続可能な形で継続できるよう検討したい。 ・水泳指導では、自分の力にあったコースでめあてをもちながら取り組むことができた。また、施設の指導員の方から、専門的で楽しく学べる指導を受けられたこともよかった。成長の実感や泳ぐことの楽しさを体感できたといえる。
情報教育	情報モラル教育の充実と学習用端末を使った授業づくり（清水）	肯定的評価：教員78%	肯定的評価：教員92%
	○学年に応じたICT活用指導を計画的に行う。 ○児童の考えを共有するために有効な学習用端末の使い方を提案し、活用できるようにする。 ○職員研修などで、ICT活用の実践報告を行う。 ・ICT活用指導計画に沿って、指導を行った。【教職員アンケート90%以上】 ・学習用端末を活用した授業を通して、児童の考えを共有することができた。【児童・教職員アンケート85%以上】	端末の変更に伴い、1年生の活用範囲は限定されている。活用指導については、指導計画などに計画を綴り、毎月末にチェックすることで計画的に指導できている。学年末始のみならず、毎学期末に計画の見直しを行う。 肯定的評価：教員71% 児童96% 児童の回答は目標値に達しているが、教員は目標値に達しなかった。2学期以降の端末切り替えに伴う研修を通して、「他者参照」をテーマに児童らの考えを広げ、深める取り組みを学校全体で行う。そのために、各種アプリケーションの活用方法を中心に校内研修を行っていく。	学習用端末の更新により使用感が良くなり、授業に活用しやすくなったため、数値には向上が見られたと考えられる。現在のICTの環境変化に対応した指導計画への見直しを行い、今後も指導を続けていく。 肯定的評価：教職員92% 児童99% 他者参照をしやすいICT環境が整い、教師も児童も授業内で活用することができた。他の人の考えを知り、自分の考えを広げ深めるのに、有効であった。今後は、ICT活用のバリエーションを増やして、様々な状況でも活用していけるよう研修を行なっていく。
人材育成	教員の授業力・資質能力向上を図る（岡田）	肯定的評価：教員78%	肯定的評価：教員92%
	○授業公開を年に一人一回実施する。 ○研究主任・リーダーが主催の自主研修を2か月に1回程度実施する。	・1学期は、計画されていた授業公開を全て実施し、部会で行われた授業整理会の内容も全教員で共有し、授業力の向上を図った。残りの授業公開も2学期に公開を予定している。 ・1学期に、自主研修を2回実施した。今後も計画を修正しながら若手教員の要望に応えられるように研修を設けていく。	・2学期に計画されていた授業公開を全て実施し、授業公開を一人一回実施することができた。指導案検討や授業整理会で話に出た改善案を取り入れることで、新たな視点から授業を考えることや児童への手立てを考えることにつながった。 ・自主研修については、月案に実施する日を明記し、単独で時間が取れようとし、計画的に実施できるようにしていきたい。

学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが落ち着いており、評価結果から自己肯定感が高いからいい授業ができると感じている。それは、先生も安定しているからだと思う。また、授業公開を先生方が年1回されていることは素晴らしい。子どもが落ち着いているこの良い状態を中学校に繋げているかが懸念される。 ・友達同士の認め合いをしてほしい。互いに良いところを気付いてあげられる。変わることはいいこと。変わったことに気付いて先生方が拾って伝えてあげられるとよい。 ・高学年になると、言葉遣いはどうか。先生がいない時に使うのではないか。先生方もアンテナを高くして、「それってどう？」と子どもに聞き、言葉の気づきに敏感になってほしい。
---------	--